

横浜市 新市庁舎の 「ひろば」 を考える シンポジウム

～低層部の開かれた空間の
使い方について
専門家を交えて語り合う～



横浜市 新市庁舎の 「ひろば」 を考える シンポジウム

～低層部の開かれた空間の
使い方について
専門家を交えて語り合う～

北部方面

平成28年5月22日(日)

13:00～15:20

都筑区役所6階大会議室

中部方面

平成28年5月28日(土)

18:30～20:50

保土ヶ谷公会堂第一会議室

南部方面

平成28年6月5日(日)

14:00～16:20

横浜市立大学ビデオホール

横浜市 新市庁舎の 「ひろば」 を考える シンポジウム

横浜市のプレゼンテーション

1. 新市庁舎の概要
2. 事業のスケジュール
3. デザインコンセプトブック

新市庁舎整備計画概要説明

横浜市 新市庁舎の 「ひろば」 を考える シンポジウム

新市庁舎整備計画概要説明

1. 新市庁舎の概要

- 建設予定地 : 北仲通南地区
- 事業者 : 竹中・西松建設共同企業体
- デザイン監修 : 槇総合計画事務所

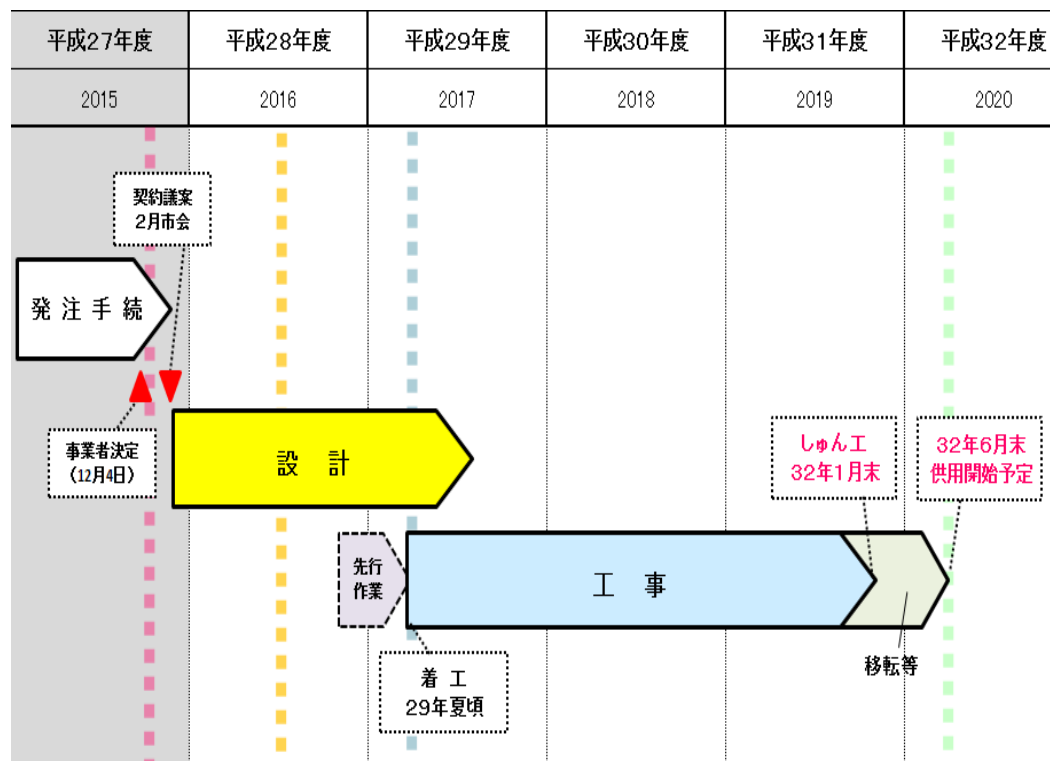


横浜市 新市庁舎の 「ひろば」 を考える シンポジウム

新市庁舎整備計画概要説明

2. 事業のスケジュール

- 28~29年度：設計
 - 29~31年度：工事
 - 32年度：供用開始（予定）
- 設計・施工一括方式
(デザインビルド)



横浜市 新市庁舎の 「ひろば」 を考える シンポジウム

新市庁舎整備計画概要説明

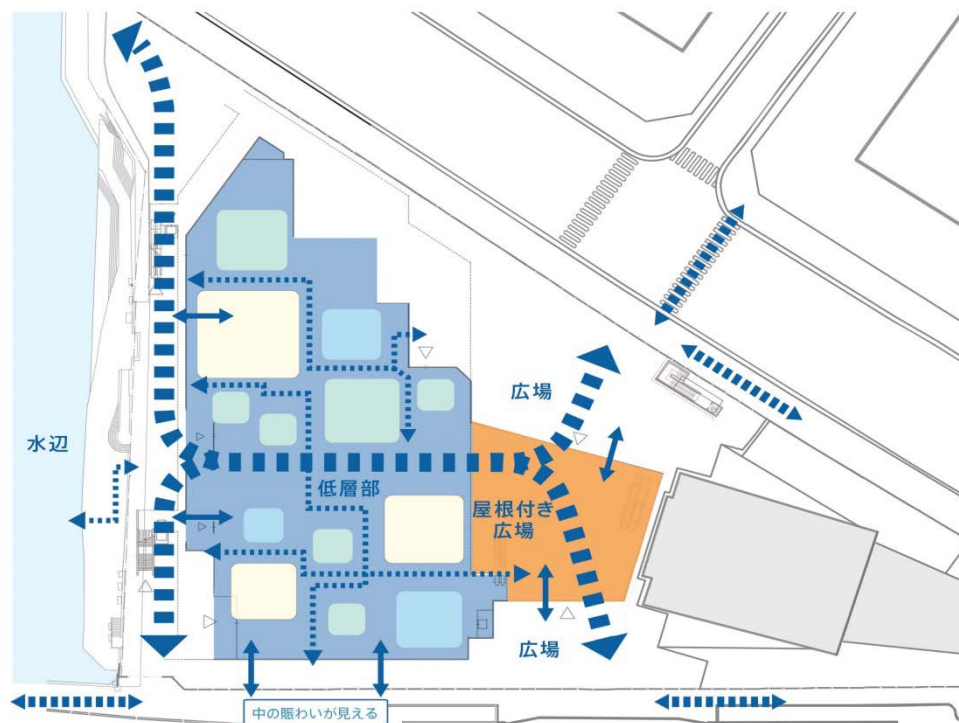
3. デザインコンセプトブック

・ 新市庁舎のミッション

～開港の街から持続可能で豊かな国際都市へ～
人、自然、街がつながる開かれた市庁舎を具現化し、
市民と共にOPEN YOKOHAMA を創出する。

・ 5つのポイント

- ①地域を結ぶ結節点
- ②横浜らしい水辺
- ③尊重すべき歴史
- ④「豊かな市民生活」や「活動」
- ⑤建築のあり方



横浜市 新市庁舎の 「ひろば」 を考える シンポジウム

新市庁舎整備計画概要説明

横浜市のプレゼンテーション

1. 新市庁舎の概要

>> 現市庁舎の執務室を集約し、北仲通南地区に建設します。

2. 事業のスケジュール

>> 設計と施工を一括で発注し、平成32年竣工を目指しています。

3. デザインコンセプトブック

>> 市民の皆さまの誇りとなる、横浜らしい市庁舎を目指します。

横浜市 新市庁舎の 「ひろば」 を考える シンポジウム

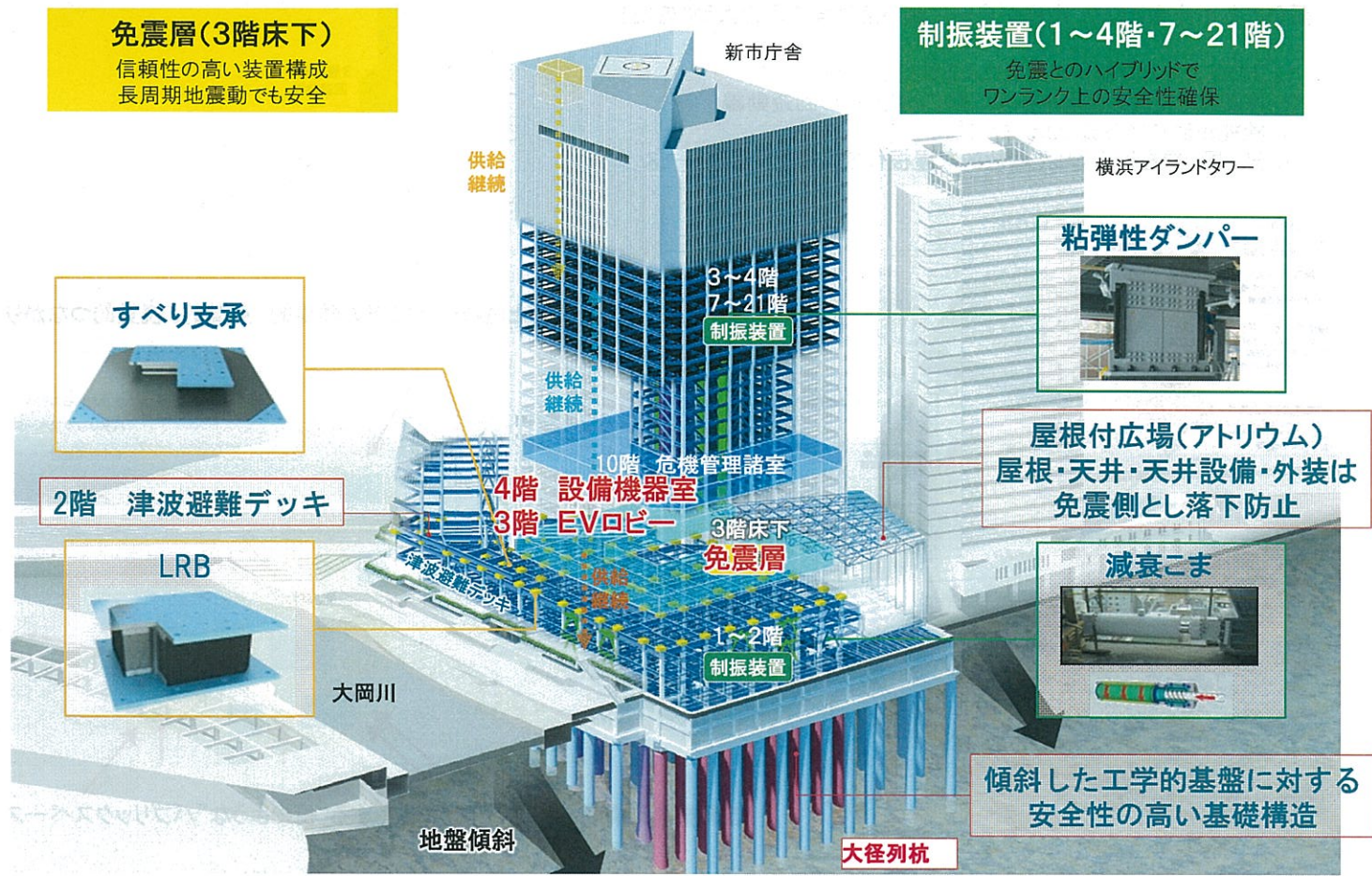
事業者のプレゼンテーション

1. 提案計画と体制の概要
2. 低層部のデザイン
3. 技術提案の概要

事業者による提案計画の説明

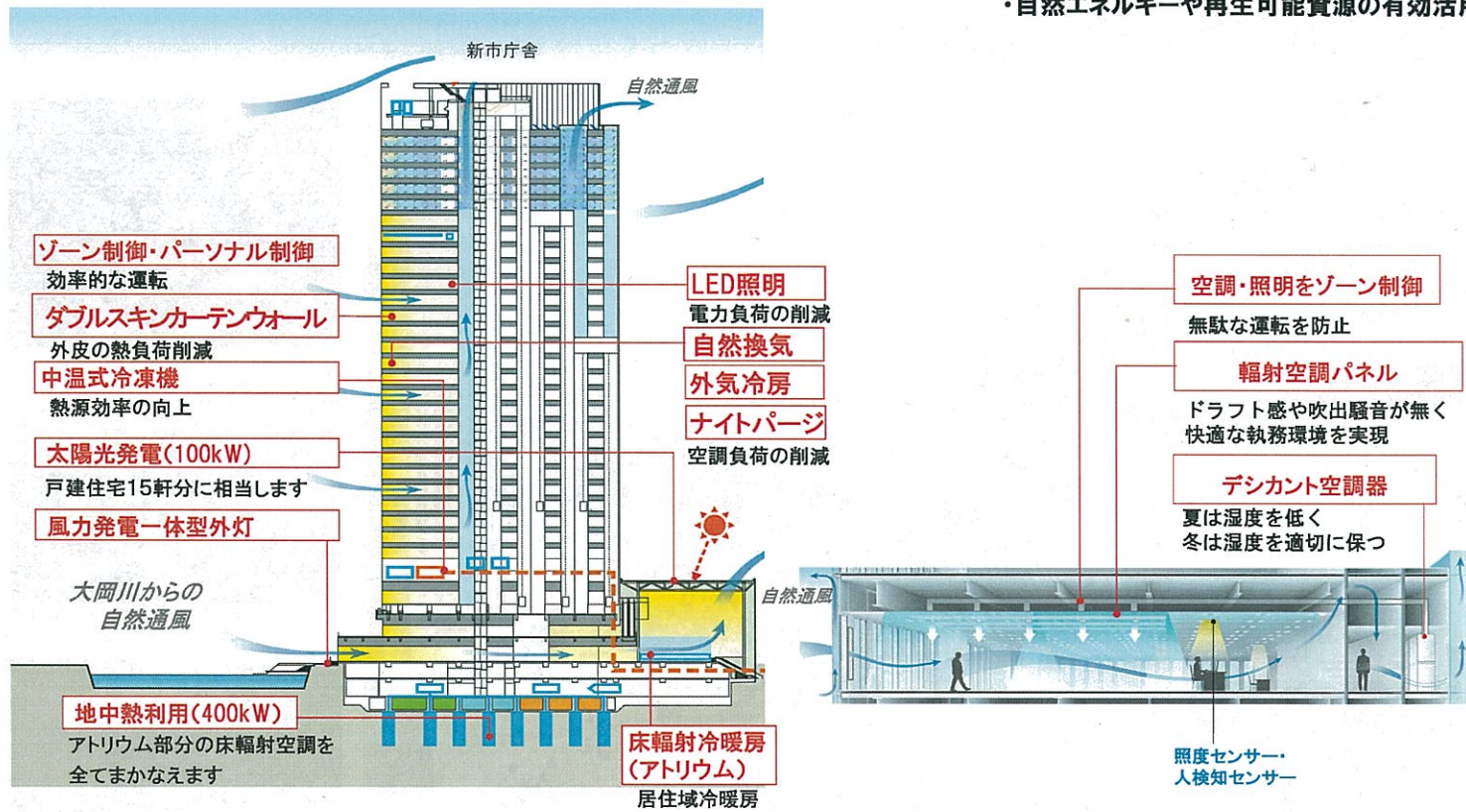
様々な危機に対処できる、危機管理の中心的役割を果たす市庁舎

免震層(3階床下) + 制振装置 ・大地震等が発生しても業務継続が可能な構造体や耐震性の確保



環境に最大限配慮した低炭素型の市庁舎

- ・先進的な環境設備・機能導入によるエネルギーコストの削減と環境負荷の低減
- ・自然エネルギーや再生可能資源の有効活用



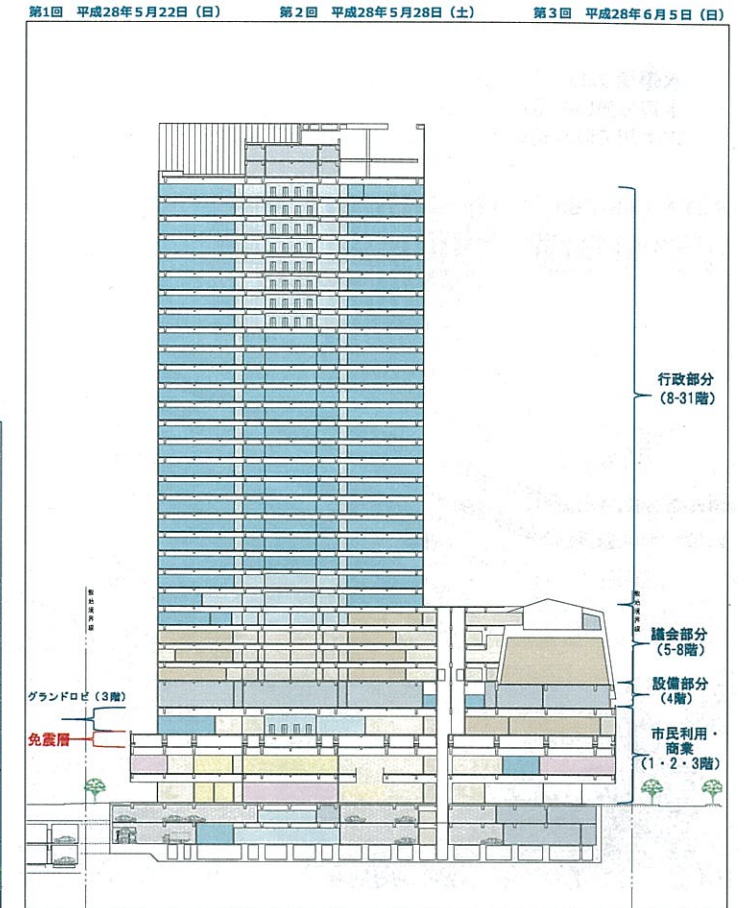
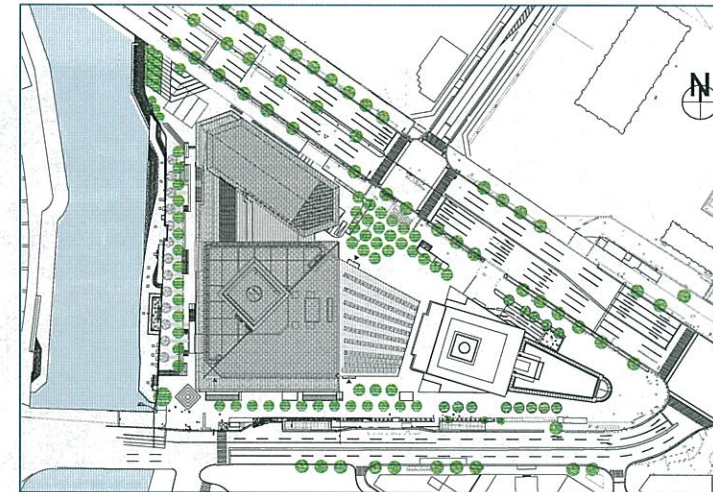
横浜市 新市庁舎の「ひろば」を考えるシンポジウム

計画概要・配置計画・断面計画

■計画地
横浜市中区本町6丁目50番地の10
(北仲通南地区)

■規模
敷地面積 13,486㎡
延床面積 140,700㎡
建物最高高さ 152m
階数 地下2階/地上31階/塔屋2階

■構造概要
構造種別 鉄骨造(柱CFT柱)
鉄筋コンクリート造
鉄骨鉄筋コンクリート造
中間層免震構造+制振構造
基礎 杭基礎+直接基礎



的確な行政サービスを提供し、豊かな市民力を活かす開かれた庁舎
中層部および高層部デザイン

- ・海から港、そして街へ繋がる新市庁舎
- ・みなとみらい21、関内、桜木町・野毛など各地区を結ぶ結節点
- ・議会棟の独立性を高める配置と形態

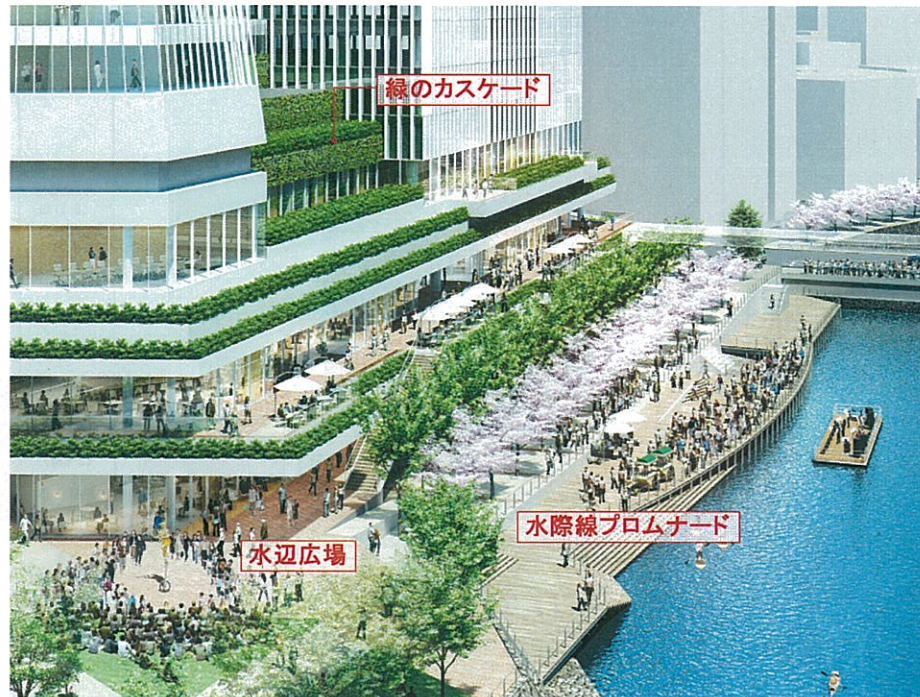
- ・白いシルクの質感と垂直性を基調とするデザイン
- ・垂直ラインを構成する白いアルミのマリオン
- ・眺望と環境性能を兼ね備えたダブルスキンカーテンウォール



弁天橋方面からの外観

市民に永く愛され、国際都市よこはまにふさわしい、ホスピタリティあふれる市庁舎
低層部デザイン - 外部

- ・水際線プロムナードに沿って立体的に展開される緑のカスケード
- ・水辺の憩いの場となる、展示スペースや商業施設につながるデッキテラス
- ・大岡川での水辺の市民活動を促す広場とプロムナード



大岡川沿い桜並木のプロムナード

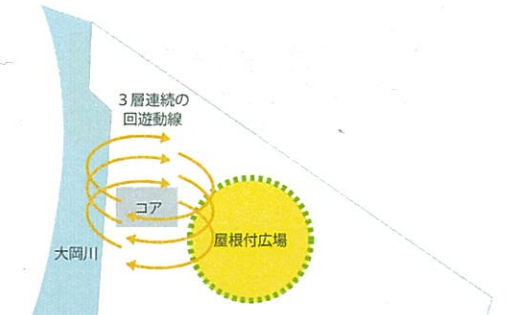


弁天橋方面からの夜景

市民に永く愛され、国際都市よこはまにふさわしい、ホスピタリティあふれる市庁舎
低層部のあり方

開かれた市庁舎として、市民が自由に集い活動する街のような低層部

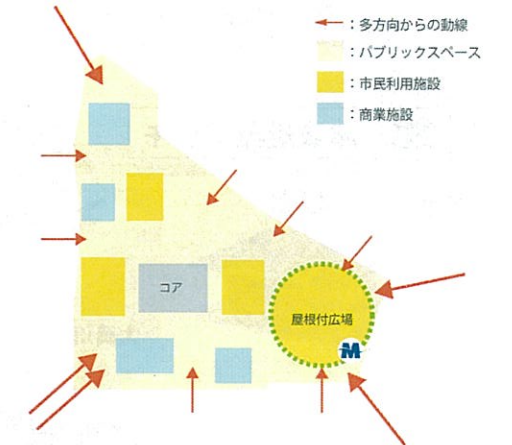
1. 3つの広場と屋根付き広場による歩行者ネットワーク
2. 水辺と屋根付き広場を多様に繋ぐ3層連続の回遊動線
3. 機能が混在する街のようなパブリックスペース
4. 光と風と緑を採り入れた開放的な屋根付き広場と展示スペース



水辺と屋根付き広場の動線的、空間的、視覚的つながり



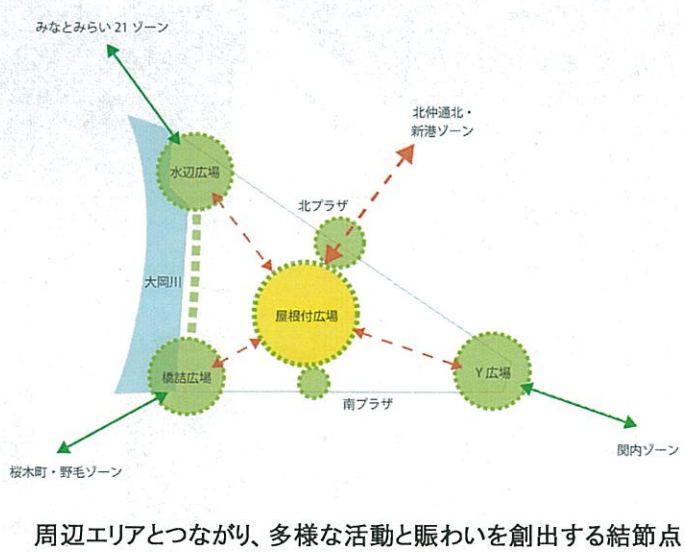
低層部空間構成



機能が混在する“街のような”パブリックスペース

建物配置の考え方

- ・3つの広場と屋根付き広場をつなぐ歩行者ネットワーク
- ・水辺と屋根付き広場を多様に繋ぐ3層構成の回遊動線
- ・光と風と緑を採り入れた開放的な屋根付き広場と展示スペース



周辺エリアとつながり、多様な活動と賑わいを創出する結節点



建物配置計画

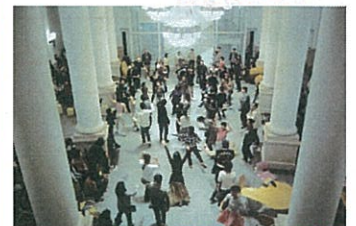
低層部デザイン - 内部



屋根付き広場 (アトリウム)



横浜ジャズプロムナード



ヨコハマ創造都市センターとの協働
市民サークルや市民向け情報発信



横浜トリエンナーレ 3